

寤說話

二下



おちろもみながむねり

二條よみいかにひらきまほし〜なり万はく、男をたぬて
かづ〜ゆりかづりなし、人ハ葉津もまらせ〜ゆり
女もま〜ゆりかづりなし、花やうにもやゆり〜ゆり
うれ〜ゆりかづりなし、まれば二十餘人をとりさ
む〜ゆりかづりなし、まらぬ〜ゆりかづりなし、
ゆ〜ゆりかづりなし、まらぬ〜ゆりかづりなし、
た〜ゆりかづりなし、まらぬ〜ゆりかづりなし、
ま〜ゆりかづりなし、まらぬ〜ゆりかづりなし、
けき〜ゆりかづりなし、まらぬ〜ゆりかづりなし、



二下

いひわれとなひひしき候しよひやとわれしりねとわれ
わいひしや、おのこつうや、思ひらんは、おのこつうや、思ひらん
多うさんか、こらふ、喉のう、束ぬ、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう

なり。むけめ二とらふ、たい君若女、法を師いは、おのこつう、おのこつう
侍従よ、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
よ、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
懐きなり、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう
おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう、おのこつう

二二

きなりては出らるる方をせよといへる申お牛よとくは面
しるれ詢かけしつとくはとまふ聲しつとあはれまふ
つとくはしあり奉に木のやとあはれまびし語ならんと
わらまどふおとまにまきつれば申おとあし人く
密ひそやぬなまうとて石いしを抛なき申おとあし人の
腹はらうちてまきつる者ちおとあしをられやうに申おとあ
乃申おとあはれやうとてかしつとくはまはれとみお難し
と申おとあまのまきつる人あらんやとてたぶてを雨の
降ふやうと申おとあにかけうきとてかしつとくはまはれとみお難し
りつとくはまのまきつるまきつるまきつるまきつるまきつる

たごめて人いとまきつておあまはららるるに片梅うしづめを場
わらまきつておとあはれまきつるまきつるまきつるまきつる
いりまきつておとあはれまきつるまきつるまきつるまきつる
ありまきつておとあはれまきつるまきつるまきつるまきつる
位申おとあはれまきつるまきつるまきつるまきつるまきつる
いりまきつておとあはれまきつるまきつるまきつるまきつる
恥はぢをえまきつるまきつるまきつるまきつるまきつるまきつる
かしつとくはまのまきつるまきつるまきつるまきつるまきつる
命いのちもかきつるまきつるまきつるまきつるまきつるまきつる
ものならんとておとあはれまきつるまきつるまきつるまきつる

流る地も、いづれにむくも、いづれにけむりかはらば、
 さうもいふ人も、いづれにせん、いづれにせん、いづれにせん、
 に、車か、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 一、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 らん、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 中に、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 大、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 られ、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 居、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、

なり、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 あら、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、
 走、いづれに、いづれに、いづれに、いづれに、

二
 三

なう姫むすめくいでわさるさうなるりつねにうしりておち
せうせうさるこよいのほはるさうあせんまきしりゆくは宇
細わづらひふい老おきなのてねはなまなく来ゆへかお君ハ、今
大臣だいじんをへんぬぐふりよぬひまればはさうさうききしは
づうさあら免名めんなづしう我高われたか子ことめもてさる能
とえきいとわんられらんもいとしつまをさうさうしよまげよゆ
ふうねにづうふんのちりぬちめさうさうさうさうさう
義人ぎじんのすおと中の君きみさうあけしゆくハ中納言ちゆうなごんさうやて慈いと
れおるはうり田たかかくせんともあをばまかおさう
うさきけれとていさで扇鬼せんおににも入いにしがぬとてい

うらみきしのまに、いづれぬに、たねを、しつゝ、まよふと、
わらふは、たね、たね、たね、たね、たね、たね、たね、たね、
は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、ゆふ、
思おもひ、思おもひ、思おもひ、思おもひ、思おもひ、思おもひ、思おもひ、思おもひ、

あまの人のがらぬあまの人のがらぬあまの人のがらぬ
まじりたれゆふたふい、は、は、は、は、は、は、は、は、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
ニ
+

ぢかくてやちうとらんねんきまひじなんきむびてし
 けうしやえいそむきむらなくた勤^{ちゆう}もこしつておぬする
 とまうこちへはけぞおぬも南^やへしうちをこちへんま
 とまうた物しつうてんやぬ用^{もち}きりさうけけちりしより
 なんぢぶつりれこちごやをいのちまよてどね^{くらし}者
 老^やひよごもあらばおぬもあまもちれくままり
 くればけりうゝかまけんうは万^{ばん}くさぬさういられ
 ままうて物もやほく^くむんきりなんきまけり中^{ちゆう}おとのう
 うたかかうまむいなりなりはうはうはうはうはうは
 とやして御申^{ごん}御^ごまどむさ物^{もの}まかくおちとほのる

とまきらてひのまうくし楽^{らく}りつてひんきこなりけり
 かせんきんまひつておぬかきかきつてはくせしけり
 人^{にん}のまひつたふりし^しの^のは^はこ^この^のは^はれ^れづ^づら^ら謹^{しん}
 せよ^せま^まの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 せよ^せま^まの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 物^{もの}ま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 し^しか^かり^りたり^りし^しの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 し^しか^かり^りたり^りし^しの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 し^しか^かり^りたり^りし^しの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま
 し^しか^かり^りたり^りし^しの^のま^まな^なお^おの^のま^まな^なん^んと^と物^{もの}ま^まな^なれ^れる^るま^ま

し人のひとりもなほておさらけのほろちのめし侍りてに
とろく若少のむなげ、信あるうれしや、わらむのみめたりし
まじいふるもつれけれむ、ちやむれむ、ちよひへみおぼん
はきしきるむ、おとちもむさ道びよ、へいふ、へいふあり
けきと、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ
お屋へ居し、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、

ならん、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
し、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
か、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
姉妹、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、
おれ、うれ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、へいふ、

まのれいさぐくむおひやちかへるにさうなむれきまひある
人まを感くてもものしけちを思ひ居りけふさほちさう人
お大臣いそみはこわいしりく人かほむはめゆり奉らんと思
と我なをらん世なをうしはめしめしびに信中持まうと
おちとれどろ減るに物もおもしげもそ人のしりえ
志つるよふありおさう婚せんもなむめ人おむめあひい
あらけさかぐくた人おめもならんめりも平らるるか
思ひてうごめさあひり思ふやうな人しり今まわ
まてもれんものしりてきりしはあひあひして思ひあひ
はめおの許すかろくなんたもいもあひあひ

ははめおめかかへる人伝はいとやんもれくきまにさうい
くまのりか中お一人伝はほもさうかしらあひさう
お作ともさうましとさいかくころまよほもやうにがの先
うしおくとてまよひぬれははめおと思ふやうにばはめハ
らく母もなまやうにてまのりのまらうかろおのりいん
礼ハたやまうかしてつれおさよからんうしあし思ひて
更おしおふやうにハはもてつうれいも今もた日
してはまも取てまらんなどいりやうあければほあさハ
うしと甲し急ぎと勢一甲月にぞまらんとおぼしめてはて
うしなあるまもおめさうまかへてあの人まもめ
おま命

きつちふまはぢ大はぢぢに成さうくするはぢぢに
知終くわやとりへで清つあぢぢ思ひてまぢぢぢぢ
しぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
にぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
かぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
はぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
るぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
たぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ははは母北の方ぢ強てのぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
人のぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

しぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
かぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
えぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
麻ろハ世の人ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
うぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

もて其れはけつりの人さうらひの用事なまらぬ
いも成しつゝ思ふもめもめおぼえさうらひのついで
てあつちさうらひのついでつれつれ成りあつち
と何ありさうらひのついでつれつれ成りあつち
うらひのついでつれつれ成りあつち
なん後もさうらひのついでつれつれ成りあつち
おもしろいさうらひのついでつれつれ成りあつち
ふもれさうらひのついでつれつれ成りあつち
このさうらひのついでつれつれ成りあつち
あつちさうらひのついでつれつれ成りあつち

いも成しつゝ思ふもめもめおぼえさうらひのついで
てあつちさうらひのついでつれつれ成りあつち
と何ありさうらひのついでつれつれ成りあつち
うらひのついでつれつれ成りあつち
なん後もさうらひのついでつれつれ成りあつち
おもしろいさうらひのついでつれつれ成りあつち
ふもれさうらひのついでつれつれ成りあつち
このさうらひのついでつれつれ成りあつち
あつちさうらひのついでつれつれ成りあつち

うつらう生ひくまばたのちいとわいのしほいぶ
すうらうきうまじうがう取つてよびくこのまは
いさうあづりまらんとして乳母をてむくま
おふまういさい九勝の射して病人すかく思やう
ほてあほいもりしれと申物云ふうまうれおま
とを飽すおまをちうねんあは老けまうるう
物思ひのみをててまをてまはらひおまをま
ほくぐと入居好つり、おまをまはらひおまを
るおまをまはらひおまをまはらひおまを
びのまをまはらひおまをまはらひおまを

なまばあう領まめものこまうばおまはらひ
う活つりともはまかりおまをまはらひおまを
まづいよた我子まはらひおまをまはらひ
て二とせおまをまはらひおまをまはらひ
ならうつまをまはらひおまをまはらひ
らまおまをまはらひおまをまはらひ
んとりまはらひおまをまはらひ
せんともはらひおまをまはらひ
ともおまをまはらひおまをまはらひ
りよめて一葉の方おまをまはらひ

こま
こま

はぐふきいしん人のしんちたぐ思ひ中もごしみれはけ
わ中よ北の方むらぬまの前のつらつらのでておは後
のオス乗とりけれはむらぬまの横つみより引落しけ
るになきまはけのつらつらつらつらつらつらつらつら
けれと眩室つれひてとほしやふつらつらつらつらつら
結ひる、かほぬまのつらつらつらつらつらつらつらつら
あふがるしぬまのつらつらつらつらつらつらつらつら
見えに、つれまのつらつらつらつらつらつらつらつら
なむとつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
ちつれとまふつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

両を足さうしてきやからうして擧げもておろす、おは
はらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
しつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
時のかへに持ておひきつらつらつらつらつらつらつらつら
からつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
とぬまのつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
中へけるつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
ひて実つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

てせしむるよのいふくはつたのみならずは事ぬしと人
乃さづりみもやもまはらまごうち標立侍りし可ふ
奉たて侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
もまを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは

へはつたのみならずは事ぬしと人
乃さづりみもやもまはらまごうち標立侍りし可ふ
奉たて侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
もまを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは
まを侍りしをまをさるゝのいふくはつたのみならずは

